

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------|-------------|--|
| 事業所番号 | 2472900345 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 洗心福祉会 | | |
| 事業所名 | グループホーム 真珠荘 | | |
| 所在地 | 三重県志摩市阿児町鶴方小入口3503-10 | | |
| 自己評価作成日 | 評価結果市町提出日 | 平成26年12月12日 | |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigvosvoCd=2472900345-00&PrefCd=24&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 三重県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 津市桜橋2丁目131 | | |
| 訪問調査日 | 平成 26 年 9 月 18 日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

保養所を活用した施設な為、居室からはたくさんの緑を見ることが出来る。入居者が7名と少ない為、個々のご利用者様のペースを大切にしつつ個々で買い物に出掛けたり、外出したりしてゆっくりと生活をして頂ける様に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地から少し離れた小高い丘にある事業所は、1階がデイサービス、2階がグループホームである。元保養所であった建物は、手すり・エレベーター・階段昇降機が設置され、少しでも利用者が安全に生活できるよう配慮されている。また良く手入れされた広い庭や高級感がただよう居室は、利用者の生活の質を高めている。定員7名と少人数であるため、地域で行われる催し物や祭り、ドライブ等の外出も多く、利用者の残存能力が維持され、また職員はきめ細かな対応ができ、理念のキーワードである「ぼちぼち」をケアに反映されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | グループホーム設立時から掲げている「敬意をもって、個性を活かし、ぼちぼちと」を念頭に、ご利用者様が無理をせず、ぼちぼちとご自身のペースで生活出来る様に支援させて頂いている。 | 事業所の定員が7名と少人数のため、のんびりと落ち着いた生活となっている。また職員は今日はどう過ごしたいのか、利用者一人一人に聞きながら、利用者を生活の主体者としてとらえ、理念を常に意識しながらケアに反映している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 近所の方に会った際に挨拶をさせて頂いたり、地域の自治会へ加入し、地域行事や催し物へ参加することで地域との交流を図っている。 | 事業所の地域性の事情から、2か所の自治会に加入している。自治会活動を長年やってきたことから、自治会や民生委員から、祭りや多くの行事に声かけがあり参加している。小学生のハーモニカ演奏の慰問は利用者にとって好評であった。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域で催される「ふくし祭り」に協力し、地域の方々の相談や提案する機会を持っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 行事報告や入居者様の現状を報告し、意見や提案を参考にサービスに取り入れている。 | 2か月に1回定期的に行われ、参加メンバーは自治会代表、民生委員、老人会、市、サービス事業者連絡会である。会議は事業所の行事や実情の報告が主であるが、参加者からは提案や質問があり、積極的に意見交換がされている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議、市役所等で市の担当者に施設の状況を相談・報告させて頂き協力関係が築ける様に努めている。 | 管理者が、介護保険関係の手続き等で直接市に出向きやり取りを行っている。又、家族からの質問で市に相談に行っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 事業所内での会議で勉強会を行い身体拘束をしないケアの実践に努めている。構造上死角が多い為に玄関を施錠しているが、ご利用者様の希望に沿って適宜外出の支援をさせて頂いている。 | 法人及び事業所内で身体拘束の研修を行っている。身体のみならず、言葉かけの内容が自由な生活を制限する表現になっていないか(例 座っという)、職員間で話し合いの場を設け、常にケアを振り返っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 事業所内での会議で勉強会を行い虐待の防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 今年度に退居されたが、成年後見制度を利用されているご利用者が居たのでそのご利用者様への対応を通して学ぶ機会があった。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の際は契約書、重要事項説明書の内容に関して、その都度質問がないかを確認しながら説明している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 遠方に住んでいるご家族様が多く、ケアプラン、施設の新聞を郵送する際に意見の交換をしたり、電話で相談をしたりして事業運営の参考にしている。 | 家族と直接会う機会が少ないため、手紙や受診報告の時の電話等でやり取りをしている。また、毎月発行している機関誌にも利用者からの意見が表せる欄があり、最近ではケアに関する要望があった。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月開催される会議の場で意見交換をしており、日々の業務中においても意見や提案を聴き、事業運営に反映している。また希望に応じて個別に面談をおこなっている。 | 職員の意見や要望は会議の場で聞き、管理者はタイムリーに解決している。最近職員からの要望として、利用者のサービスの質が低下しないよう業務の見直し(入浴日の設定)が出され改善された。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 法人諸規定(給与・服務規程)に基づく。年度の初めには法人全体会議をおこない、規定の変更や、留意点に関して説明をおこなっている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内外の各種研修に参加すること、介護の現場での指導を通して個々のレベルアップに繋げている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 志摩市サービス事業者連絡会へ参加することで他事業所と顔の見える交流をおこない、その場での意見交換等をおこなうことでお互いのサービスの向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 安心して施設生活を過ごす頂く為に、ご本人様が不安に思う点、希望される点を確認させて頂き、不安な点はいつでも相談して頂ける様な関係が作られる様に努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 安心して施設生活を過ごす頂く為に、ご家族様が不安に思う点、希望される点を確認させて頂き、不安な点はいつでも相互に相談の出来る関係が作られる様に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談内容を基に、その方に最も適している支援サービスが受けられる様に検討し、対応している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員が全ての作業をしてしまうのではなく、出来る範囲でご利用者様に施設での役割を持って頂き、役割を職員と一緒に頂くことで関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 外出支援等の個別対応の相談や受診の相談等をおこない、ご家族様に協力して頂いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 年賀状、暑中見舞い等の季節の手紙を書いて頂いたり、ご友人に施設へ来て頂いて、馴染みの関係が継続出来る様に努めている。 | 入居時に家族から馴染みの関係を聞き取り、入居後も利用者の会話の中で把握している。家族の協力で行き付けの美容院に行ったり、スーパーにも出かけている。また利用者同士の会話では、職員が回想法を取り入れ支援に努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 個々のご利用者様の性格、気性等を把握するように努めている。また、一対一であったり、複数人であったり、その場面毎に合わせて職員が傾聴し、間に入ることで皆が生活の出来る様に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 転居先の施設を訪問して、関わりを持って行ける様にしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一日の大まかな生活の流れはあるが、その中でもご利用者様から希望がある際には職員間で相談し希望が叶えられる様に努めている。 | 利用者が自分の思いを表出しやすいように、職員は居室など1対1で会話出来る機会を作り、そこで話を聞いている。思うように言えない利用者には表情やしぐさの反応を見て、「本人はどうか」という視点に立って把握に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 個々の記録に趣味や習慣等を記録し、把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 今出来ていることが、今後も無理なく出来る様にある為にも個々の過ごし方を観察し、申し送り、カンファレンス等を通じて情報を把握する様に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | カンファレンス、合同会議での意見交換、受診時の主治医への相談、面会時、電話でのご家族様への相談を行い、プラン作成に反映している。 | 毎月カンファレンスを開催し、利用者全員のモニタリングを全職員で行い、それを基に3か月毎の評価、見直しを行っている。更新以外にも状態の変化に応じて、主治医・家族の意見を基にチームで計画書を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ご利用者様の過ごしの様子、ちょっとした変化をカルテの記録、連絡帳に残すことで職員間の情報共有に努めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 個々のニーズに対してどのようにしたらそのニーズが満たされるのかを職員間、必要に応じて他事業所等で相談し、自事業所の出来る範囲内ではあるが支援出来る様に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域のスーパーへの買い物、理容院への散髪、アリーナへの美術展鑑賞等への外出を通して地域との繋がりを大切にしながら楽しんで生活が出来る様に支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時に施設の協力医療機関の説明をおこなったうえで、ご本人様や、ご家族様の希望される医療機関を受診されている。 | 入居時に利用者・家族からかかりつけ医について説明し、現在では全員が協力医を選択している。定期的な受診は職員が同行し、主に電話で家族に結果を伝えている。急変時や重要な判断の時には家族の協力を得ている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 施設看護師が健康状態の把握に努めており、看護業務を行っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | ご家族様、病院関係者と情報交換、相談をおこなうことでスムーズな医療連携が図れる様に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居の際に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し、同意を頂いている。また、病状の進行等に合わせてその都度ご家族様、医療機関と相談をおこない支援の方向性を決めていく。 | 入居時に看取りや重度化に向けての指針を文書で説明し、事業所で対応が困難になった時の準備として、施設入所の情報提供をしている。また状態の変化によって、その都度家族と話し合いの場を設け、利用者にとって一番良い方法を決めている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 事業所内での会議で緊急時の対応、連絡体制について看護師よりレクチャーをおこない、確認をおこなっている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 毎月避難誘導訓練を行っており、年2回の訓練には消防署、地域の方々等にも参加して頂き、有事の際の地域との協力体制の強化に努めている。 | 年2回の消防署立会いの訓練と、自治会主催の訓練では持ち回りとなり、毎月事業所のみでの避難訓練も実施している。また事業所が高台にあるため、地域の避難場所として市と協定を結び備蓄品も用意している。 | 主に火災を想定したものとなっているため、今後は地震も対策の一つに入れ、どこからも救援の見込みがない地震に対して、夜間を想定した訓練を繰り返し、職員が落ち着いた行動ができるよう期待する。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 全体会議において、接遇研修を行い、ご利用者様に対する言葉使い、態度等について見直しを行うことで実践に繋げている。 | 新人職員に対してマニュアルにそって接遇研修を行っている。また機会あるごとに全職員に対し合同会議で、言葉使いや接し方等ケアの見直しを行っている。また狭い地域であるため、利用者のプライバシー保護には注意している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 一対一で過ごす機会を意図的に作ってご利用者様が希望を話し易い環境作るように努めている。また、衣類の選択等生活の中で選んで頂く選択肢がある際は会話を通じて選んで頂く様にしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ご利用者様の声を聴き、日々の状態に応じて柔軟な対応をとる様に努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 個々のこだわりを大切に、衣類の選択であったり、髭剃り、整髪、化粧等の整容をご自身でして頂いている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事前後の準備、片付けを一緒にして頂いている。また、おやつ作り、昼食作りを通して楽しんで頂いている。 | 食事は同法人の給食センターからの宅配である。利用者はテーブル拭きや後片付けを職員と一緒にやっている。毎月センターと事業所で、献立や味付け等についての話し合いの場があり、利用者の意向が反映されている。 | 食事は一番の楽しみでありコミュニケーションの場でもある。同じテーブルで職員と一緒に食事する事は、食事を通して会話が弾み和やかな雰囲気となる。そのような環境作りを検討して頂きたい。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事メニューは栄養士が作成し、バランス良く摂取されている。また、咀嚼の力加減に応じて副菜を刻んで提供している。水分補給は定期的にお茶、コーヒー等、スポーツ飲料等で提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後に見守りや介助で口腔ケアの支援を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を活用しつつ、個々のトイレへの声かけ、誘導を行うことで排泄の自立へと繋げている。 | 個々の排泄パターンを把握し対応しているため、ほとんどの利用者は声かけや見守りの状態である。失禁は本人の尊厳にも関わるため、利用者のソワソワした様子を見逃さず、配慮した個別の排泄支援となっている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 主治医の協力も得ながら、排泄チェック表にて排便の管理を行いつつ、集団体操等の体を動かす機会への参加、水分補給の促しを行うことで便秘の予防に努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 併設施設と同じ浴場を使用している為、午後から入浴をして頂いている。基本的な入浴の曜日は決めているが、希望に応じて入浴日の変更を行っている。夜間の入浴は現在おこなっていない。 | 入浴日は週4回であるが、体調や気分がすぐれない時は入浴のない日でも入れるように利用者の希望に沿っている。浴槽は広く、坪庭を見ながらのんびりと入浴でき、入浴剤や菖蒲を入れてくつろいだ気分の入浴支援となっている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々の生活に合わせて午前中は居室で休んで頂いたり、食後に休んで頂いたりして体を休める機会を設けている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の処方確認は看護師がおこなっている。また、処方時の説明書を確認することで内容の確認をおこなっている。薬の内容に変更がある際は連絡ノート等を使い、情報の共有をおこない、記録を残すことで経過の観察をおこなっている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 日常生活の中で、出来る力に応じて役割を持って頂いており、個々の好みに応じた趣味の支援が出来る様に支援をしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 近所への散歩、美容院、ご利用者様からの希望の買い物等を通して外出をおこなっているが、ご家族様の協力を頂きながらの外出は出来ていない。 | 利用者の希望を聞き、ドライブや買い物を2班に分けて行っている。また、近隣周辺の散歩は住民と挨拶をかわす機会であり、日常的に行われている。四季折々に変化する広い庭やテラスは日光浴として活用し、気分転換を図っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 買い物の際はご利用者様に財布を持って頂き、勘定はご自身でして頂く様に支援をしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご利用者様の希望に応じて電話を掛けたり、手紙を書いて頂き、郵便局へ出かけている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節感を大切にしながらご利用者様と一緒に飾りつけを行っている。また、エアコン、扇風機を使うことで温度管理をおこなっている。 | 1階の食堂はデイサービスと兼用であるため、利用者が混乱しないようにテーブルが配置されている。談話室は廊下を利用しているが、テレビや本箱、椅子や机、作品等が配置され、くつろぎの場所となっている。別の廊下には座り心地の良い椅子があり、職員と会話を楽しむなど、工夫されている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 皆様が集まる場所と、1～2名が外を眺めながら過ごして頂くスペースを設けている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた家具を持ち込んで頂き、安全で居心地の良い生活が送れるように支援している。 | 元保養所の建物であり、各利用者の居室は広く畳敷きで床の間や障子は高級感がある。座敷机・椅子・クローゼットは事業所で用意され、水墨画の掛け軸や仏壇、趣味である本等持ち込まれ、家族の協力を得て居心地の良い居室となっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 元々が保養所であり、段差の多い施設の為、手摺、エレベーター、階段昇降機を設置している。シルバーカー等の併用もあるが、可能な限りご自身で移動し、生活して頂ける様に工夫をしている。 | | |